

II-A-19

柴苓湯による小児滲出性中耳炎の治療

東北大学耳鼻咽喉科学教室

○池田勝久，高坂知節

目的 小児に多発する滲出性中耳炎には，有効な治療法が確立されていないのが現状である。その主たる病因として炎症及び免疫学的機序が挙げられている。柴苓湯は抗プロスタグランディン及び抗アラキドン酸代謝阻害作用，抗アレルギー作用（Ⅲ，Ⅳ型）を有しており，本疾患の病因からも合目的な効果が期待される。

4～9才の35名（46耳）の滲出性中耳炎患者に対して柴苓湯による治療を試みたので報告する。

方法 滲出性中耳炎の診断は鼓膜所見，インピーダンス・オージオメーター（B又はC型），純音聴力検査（骨導気導差が20 dB以上）によった。後2者の検査によって治療経過を追った。柴苓湯（ツムラ）の投与方法は体重20 kg以下：1回1.5 g，1日2回，20～40 kg：1回3 g，1日2回，40 kg以上：1回3 g，1日3回とし，投与期間は4週間とした。効果判定方法は前述した2検査の薬物投与前後の所見を点数化して判断した。つまり，ティンパノグラムでは，2点：B又はC型→A型，1点：B型→C型，0点：その他の変化，聴力検査では，2点：20 dB以上の改善又は正常化，1点：10～20 dBの改善，0点：10 dB以下の改善とし，両者の合計が4点（治癒），3点（著明改善），2点（改善），1点（やや改善），0点（不変）と定義した。

結果 聴力検査では7耳（15.2％），ティンパノグラムでは17耳（40.0％）に検査所見の正常化が認められ，以下のごとくの結果となった。治癒4耳（8.7％），著明改善9耳（19.6％），改善11耳（23.9％），やや改善12耳（26.1％），不変10耳（21.7％）で，やや改善以上が78.3％，改善以上が52.2％であった。